





ファリス

すや、すや…Zzz…。



海賊：B

酔いつぶれて、深く眠ってるな…。



海賊：A

こうしてみると、やっぱり…、  
おかしら…綺麗だ…。



ぴちっ



海賊：B

お、おまえ、おかしらに…なんてことっ！



海賊：A

お、おまえだって…見たいくせに…。





がやがやと騒がしい酒場のなか、  
ごくろり…と二人の間に唾を飲む音が響く。



海賊：A

お、おかしらの…介抱、しなきゃ…。





酔いつぶれてるファリスの、  
外套のベルトを外し、大きく前をひらいた。



海賊：B

すっげー。



ちいさい頃から娘のように育ててきた、  
ファリスの成長した姿に、感情がこみ上げる。





ひとりの海賊が、ファリスのインナーを、  
ぐいっと一気に上にたくしあげた。



海賊：D

お、おかしらの…おっばい…、  
綺麗だなあ…。







みっちりと閉ざされた一本線を、  
両手の指で、くぱぁ・・・と左右に大きく広げた。



海賊A

こ、これが…おかしらの…。





ファリス

あ、えっと…おまえたち…？



海賊A

す、すまねえ、おかしら!!!!





他の仲間の海賊たちが、目を覚ました  
ファリスの身体を押さえつける。



ファリス

おまえら、なんで…こんな…。



海賊A

おかしら、俺たちを置いて…、  
あいつらと、旅に…行っちゃまうんだろ…



ファリス

そ、それは…。



海賊A

いいんですよ、俺たち…応援してますから。  
でも、代わりとこっちやなんですが、最後に…。





めふふふ…っと、海賊一味のペニスが、  
ファリスの膣奥に沈み込んでいく。



ファリス

や、まで…やめ…ろ…。





海賊A

俺たちや、おかしらのことが…家族で…、  
そして、誰よりも大好きなんだ…。



海賊B

俺たちも、ヤルぞ…おかしらを…見送るんだ。



酒の力も相まってか、異様な雰囲気の中、  
誰もがまともな思考ができていない。



ファリス

バカ野郎が…しかたねえ…。

ちゃんと、俺のこと…イかせてみるよ…。



ファリス自身も、酒の勢いもあってか、  
家族同様の男たちを受け入れる。





海賊A

あ、ああっ、おかしらぁ～好きだぁ～！！  
おかしらぁ～っ！！





ファリス

…まったく、早すぎるんじゃないのか？  
だらしねえぞ…。



ファリス

そんなん、俺のこと、  
満足させれると思ってるのか？



海賊一同

俺たち全員で、おかしらを満足させて、  
みんなで笑顔で送り出すぞ！



ファリス

…ったく、バカ野郎どもがよ。





**ファリスを含めた、海賊団一行、  
その乱痴気騒ぎは、夜が明けるまで続き…。**



翌朝から行動を共にする、バツツ一行と、  
ファリスが、世界を救うことになることを…。



**この時、まだ、誰も知らないのであった。**